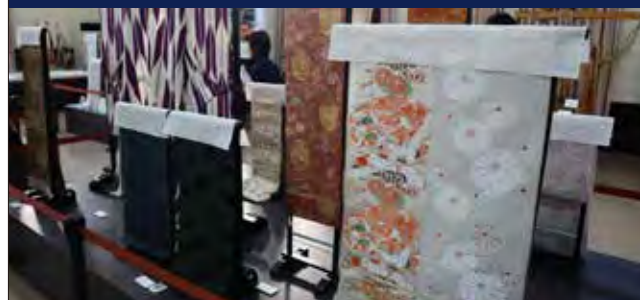




伝統あるブランドの知名度を
商標権の取得でさらに高め、
新たな市場を求めて海外進出

桐生織

「西の西陣、東の桐生」とも言われるように、群馬県桐生市は全国的にも知れ渡る織物産地です。「桐生織」は1300年もの歴史を誇る伝統的なブランド。産地では明治時代にジャカード機など当時の最先端技術をいち早く導入して近代的な生産体制を確立し、海外への輸出も古くから行ってきました。近年は地域団体商標の取得により付加価値の高いブランドであることをアピールし、海外における新たな市場開拓にも積極的に取り組んでいます。



地域団体商標
海外展開事例

08

信頼性の高い産地で
作られた生地であることを
伝えるべく
地域団体商標を取得

「桐生織」は歴史と伝統のあるブランドですが、商品の素材として提供されるため消費者による認知度が低い点が悩みどころでした。商品購入者に安心感を与えるためにも確かな産地によって作られた生地であることを明確に伝え

るべく、地域団体商標を取得し「桐生織」のマークも作成しました。すでに和装で伝統的工芸品の指定を受けていましたが、「桐生織」は洋装や小物など汎用性が広いため全体を網羅する商標の取得も狙いの一つでした。アパレルメーカーとしても「桐生織」のロゴが入ったタグを付けることで、国産の信頼ある生地を使用していることをアピールすることが可能に。それにより「桐生織」

のニーズがより高まることも地域団体商標を取得したメリットと言えます。



地域ブランド 10の成功物語 | 海外展開事例



【権利者】桐生織物協同組合
【住所】群馬県桐生市永楽町5番1号
【TEL】0277-43-2511
【地域団体商標】桐生織
【商標登録】第5108209号

桐生織物協同組合
ホームページへ



ジェトロの制度を活用し 中国人デザイナーとの タグで海外進出を推進

近年の大きな転機は、日本貿易振興機構(以下、ジェトロ)の「地域団体商標海外展開支援事業」を活用したこと。同制度は、その名の通り地域団体商標を付した商品やサービスの海外展開をジェトロが支援するというものです。桐生織物協同組合は、人口減少や低価格ファッションブランドの隆盛など国内市場の変動を鑑みて、新たな活路を見出すべく同制度に申請し受託されました。2018年度から取り組みを実施。ジェトロからブランドプロデューサーが派遣され、組合とともに市場調査や商品選定などの協議を重ねました。その結果、国内の織物産地をリードする「カットジャカード」という特殊加工を前面に打ち出したブランディングを海外展開することを決定。その一環と

して中国で活躍するデザイナー、ヴィヴィアンノース氏との協業により、「桐生織」の新たなイメージを創出する洋服を企画・製作。2019年10月に開催された「上海ファッションウィーク」に出展しました。それに合わせて海外向けのロゴ製作や多言語ウェブサイトも準備を進めています。「桐生織」は古くから輸出を盛んに行っていた来ましたが、地域団体商標を核とした海外進出の新たな局面を迎えています。



VIVIANO SUE
ヴィヴィアンノース氏デザインの洋服

この方々にお話を聞きました！ 桐生織物協同組合



理事長
牛腸 章氏

日本の国が認めた地域団体商標は、海外に対してもアピール力になります。「日本の中の桐生」「世界の中の桐生」を伝える上で、商標取得は大きなメリットがありました。



専務理事
藤生 孝昭氏

海外での取り組みを足掛かりに、今後は桐生織のブランドを国内により広げていきたいと思えます。さらに地域団体商標で個々の商品のブランド力も高められればと考えます。



事務局長
石原 光茂氏

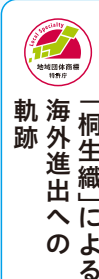
アパレルメーカーからも「生地は桐生織」と表示したいという要望が届いていました。地域団体商標を取得しマークも製作したことで、それを実現することができました。

この方にお話を聞きました！ 日本貿易振興機構(ジェトロ) 群馬貿易情報センター



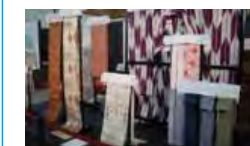
亀井 信明氏

ヴィヴィアンノース氏との協働を皮切りに、地域団体商標を活かし「桐生織」がオリジナリティ豊かな高級生地ブランドと多くの現地デザイナーに認知してもらうことが一つのゴールです。



STEP 1 1977年10月

和装にて
伝統的工芸品の
指定を受ける



STEP 2 2008年2月

地域団体商標取得、
「桐トンボ」の
統一マークも製作



STEP 3 2018年

ジェトロの
「地域団体商標
海外展開支援事業」
に申請・採択

STEP 4 2019年10月

上海の展示会に
現地デザイナーとの
協働による
作品5点を展覧

